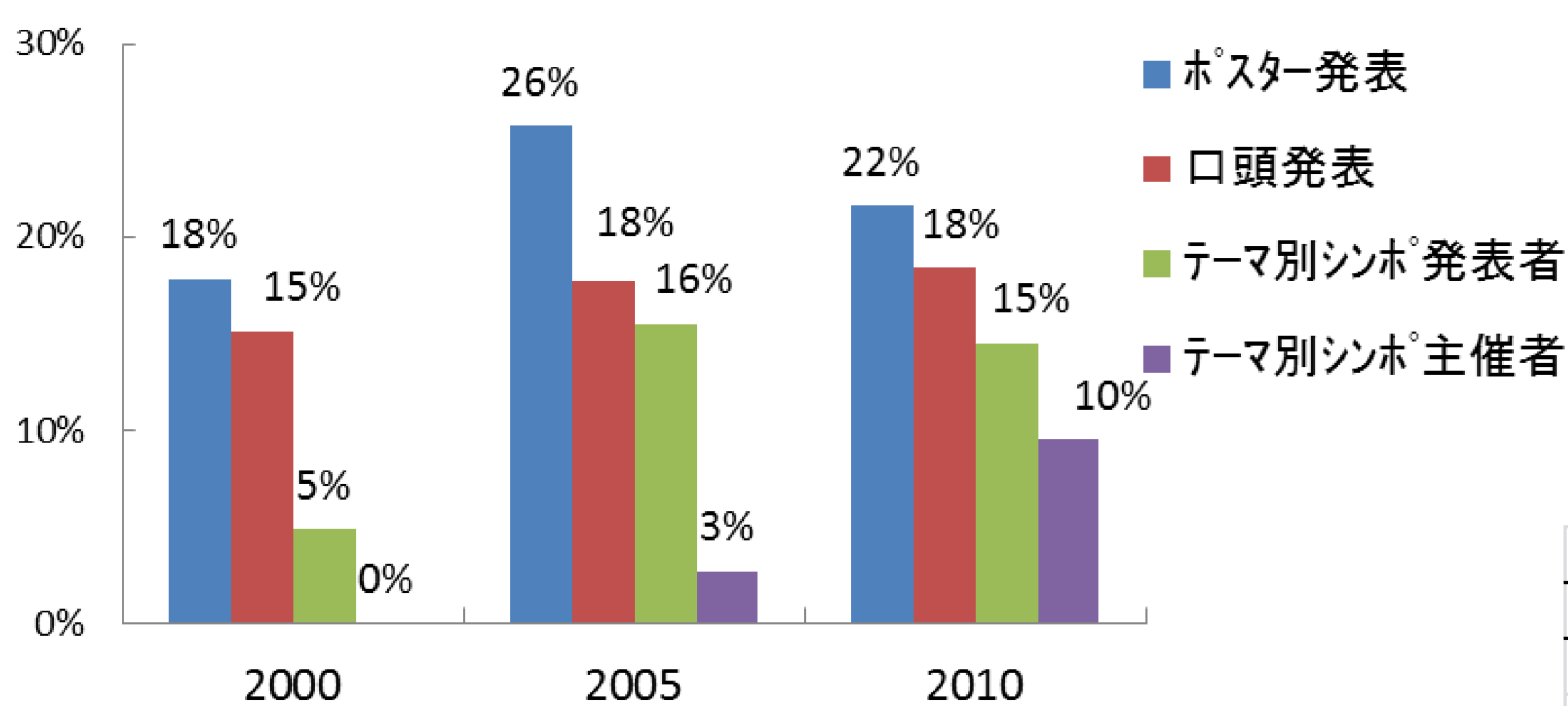
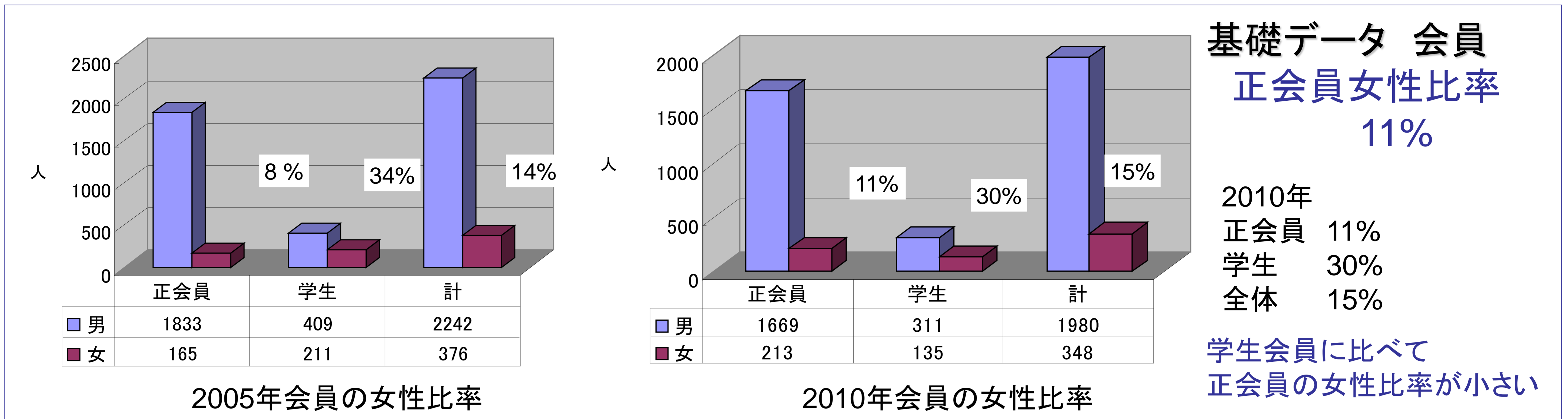


日本森林学会における男女共同参画の実態調査

日本森林学会・男女共同参画

学会における男女共同参画を促進するため、2009年に日本分子生物学会が学会大会において女性研究者の活動状況を報告したのを皮切りに、他の学会でも同様の調査が開始されました。そこで、日本森林学会でも、女性研究者の活動状況を把握するため、下記の3点を調査しました。

- ①会員の女性比率
- ②大会における発表者とシンポジウム主催者の女性比率
- ③学会運営における女性比率

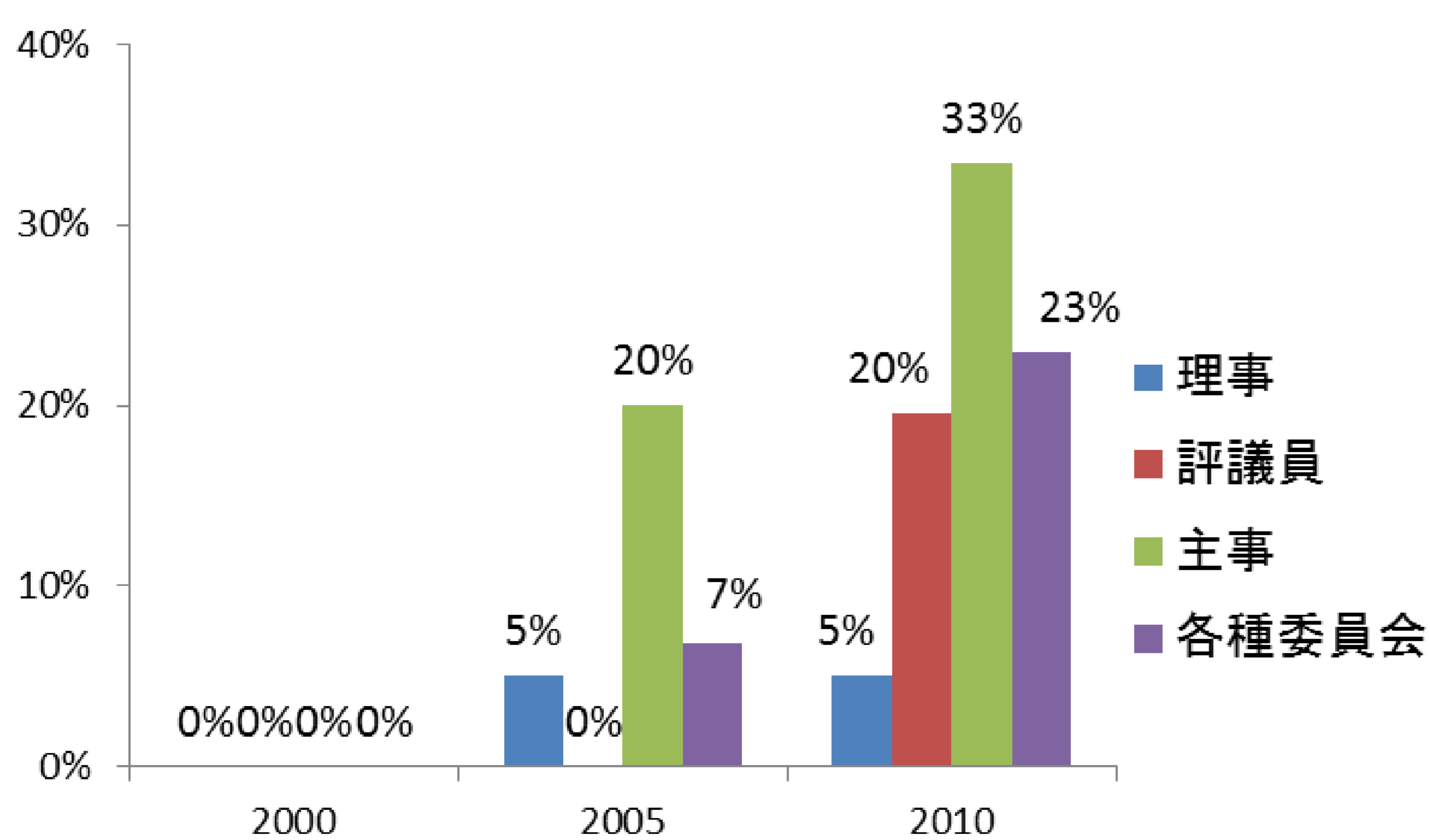


集計結果1 発表者・主催者 女性比率が増加（とくに2000-2005）

- 2000年:ポスター・口頭発表者すでに15%以上シンポジウム発表者わずか、主催者0
- 2005年:シンポジウム発表者が16%に増加
- 2010年:シンポジウム主催者が10%に増加

	2000年		2005年		2010年	
	男	女	男	女	男	女
ポスター発表	124	27	242	84	315	87
口頭発表	308	55	139	30	164	37
テーマ別シンポ発表者	39	2	201	37	112	19
テーマ別シンポ主催者	9	0	36	1	38	4
理事	22	0	19	1	19	1
評議員	50	0	47	0	37	9
主事	9	0	8	2	6	3
各種委員会	111	0	82	6	47	14

注: 名前から性別を判断。判断の難しい名前は除外しています。



集計結果2 学会運営 女性比率が増加（とくに2005-2010）

- 2000年:女性の役員 不在
- 2005年:主事が20%に増加
- 2010年:主事(33%)、各種委員(23%)、評議員(20%)が増加、しかし理事はわずか

まとめ

日本森林学会における研究発表・シンポジウム主催・学会運営への女性研究者の参画が、この10年で確実に進んだことが明らかになりました。

しかし、正会員の女性比率の増加はわずかです。日本森林学会の男女共同参画の大きな課題として、正会員の女性比率の向上があげられます。日本分子生物学会(会員数15000名以上、女性比率:正会員20%、学生34%)に比べると、学生会員の比率は同程度ですが、正会員の比率は約半分です。これは、森林関係の研究職への女性の就職が増えていないことを示しています。

今回のような属性調査は、男女共同参画へ向けた学会全体の意識改革の第一歩になると考えられます。